

英語Ⅱ 学習指導案

学校名 滋賀県立米原高等学校
指導者 青山 吉伸

1. 対象 第2学年6組(理数科クラス) 男子30名 女子10名 計40名
2. 日時 平成19年11月7日(水) 第5限(13:20~14:10)
3. 場所 理数科講義室
4. 教材 PRO-VISION ENGLISH COURSE II (桐原書店)
5. 単元 Lesson 6 (Genetically Modified Foods)

6. 単元設定の理由

英語Ⅱでは、語彙および語法の理解から始め(input)、フレーズリーディングやパラグラフリーディング及び様々な音読活動による言語材料の理解や本文の概要把握、言語材料の内在化(intake)、及び内在化した言語材料等を適宜使って自己表現させる活動(output)を中心に指導している。この単元のテーマは、遺伝子組み換え食品についてであるが、それは、効率よい食料確保という利点がある一方で、安全性や環境の与える影響が懸念されるという問題が存在する。それに関する記事を読み、その内容を理解し(input)、そこで習得した表現を使って、単元の内容及びそれに関わって自分が興味を持ち調べたことについて簡単なプレゼンテーションをさせたい(intake,output)。将来、英語を使ってプレゼンテーションできる積極的な意欲や態度を培わせ、論理立てて聞き手を納得させられるような発表を心がけさせたい。

7. 単元目標

- 1 新出単語の発音等を含めた確認と主な語法の理解をさせる。(input-intake)
- 2 各パートの内容をトップダウン式に聞き(sight-listening)、読ませ(sight-translation)、概要を把握させる(scanning, skimming)、予測可能な語句については自力で推測・理解させる。(input-intake)
- 3 様々な音読活動や通訳訓練法(英語から日本語へ、日本語から英語へ)を通して言語材料の内在化を図る。(intake)
- 4 既習の表現を使い、論理的な展開を考慮しながら、本文の内容を端的に英語でまとめさせる。(intake)
- 5 既習の表現を使い、論理的な展開を考慮しながら、本文の内容を英語で発表させる。(intake)
- 6 自ら考察した内容を、本文の構成・展開に沿って、英語で発表させる。(output)
- 7 英語でのプレゼンテーションの方法を身に付けさせる。また active listener としてプレゼンテーションに参加する態度もあわせて身に付けさせる。(output)

8. 単元計画指導

- | | |
|--------|--|
| 第1時限目 | 1. Pre-Reading として、口頭で遺伝子組み換え食品について、Q&Aを行う。
2. 語彙・身につけたい表現の確認と発音等音声指導を行う。 |
| 第2時限目 | 1. 語法(文法)の確認と理解をさせる。
2. Part 1, 2, 3 の内容理解をさせる。(Q&A, sight-listening, sight-translation・音読活動) |
| 第3時限目 | 1. Part 1, 2, 3 の内容理解をさせる。(Q&A, sight-listening, sight-translation・音読活動) |
| 第4時限目 | 1. Part 1, 2, 3 の内容理解をさせる。(Q&A, sight-listening, sight-translation・音読活動) |
| 第5時限目 | 1. Part 1, 2, 3 の内容をフローチャートとしてシートに簡潔に英語でまとめさせる。
2. パワーポイント用のスクリーンを完成させる。 |
| 第6時限目 | 1. パワーポイント用のスクリーンを完成させる。 |
| 第7時限目 | 本時 |
| 第8時限目 | 本時と同じ |
| 第9時限目 | 1. Part 4 の内容理解をさせる。(Q&A, sight-listening, sight-translation・音読活動) |
| 第10時間目 | 1. 本文全体に関わって、自分の意見を考えさせ、口頭で述べさせる。 |

9. 本時の目標

- 1 この単元で習得した表現を用いながら、英語でプレゼンテーションをさせる
- 2 プレゼンテーションを通して、英語でコミュニケーションしようとする積極的な態度や意欲を養う。
- 3 英語での発表の方法や active listener としての発表を聞く態度を養う。
- 4 聞き取った内容が、本文の内容と合致できるようにディクテーション能力を養う。

10. 生徒の実態・生徒観

理数科は、将来科学者として、自然科学や科学技術・医療の分野で社会に貢献できる人材を育成することを目標としている。年度末には、理数科の特色ある行事として、各個人が「理数科研究発表大会」において、自らが調べた課題についてパワーポイントを使って研究発表することになっている。対象となる2年6組は理数科クラスで、他のクラスに比べ、男子の数が多く、概して、英語を得意とする生徒は少ない。また1年次の英語Ⅱの授業は、1単位少なく、英語Ⅱにおいても1単位少なくなっていて、それゆえ英語に触れる機会が少ないのが現状である。現在の国際・情報化社会では、将来英語を使って、発表したり、英語論文を読んだりする機会が今後増加すると予測される。高校時代から、英語による積極的にコミュニケーションする態度や意欲をより高められるかが大きな課題である。

1 1. 本時の展開

過程	教師の指導内容	指導形態	生徒の学習活動	指導上の注意	教材	評価
導入 5分	1.本時のプレゼンテーション活動の内容を指示する 2.評価についての説明をする	一斉	教師の話聞きスムーズにプレゼンテーション準備に移れるようにする	1. プレゼンテーションの要領を把握させ、 active listener としての態度を養わせるとともに聞いた内容をききとらせる 2. 評価の公平さを伝える	1. 発表用資料 2. 評価シート	聞いて理解する能力
展開 40分	プレゼンテーション各プレゼンテーション後 Q&A 及びフィードバックする ディクテーション 聞き取った内容が本文の内容と合致しているか確認させる。		発表する生徒 1.本単元で習得した表現を使って、パワーポイントを利用して、発表する 発表を聞く生徒 1.与えられた発表用資料にメモをとる。 2. 発表後評価する。	1. このプレゼンテーションの内容は、既習事項なので発話(→intake)において正確性を求める。 2. プレゼンテーション後の質問は、自由な意見が出るように工夫したものにする。(→output) 3. プレゼンテーションが one-way にならないように、メモを参照しながら、他のメンバーを見て発表する。		1. 既習表現等を自分の言葉として捉え、積極的に発表しようとする意欲や態度 2. 発表内容を的確に聞き取り、書き取ろうとする意欲や態度
まとめ 5分	プレゼンテーション活動に対するフィードバック		教師の話聞き自分たちのプレゼンテーションを振り返る	プレゼンテーションで良かった点、改善すべき点を具体的に指摘する		1. 聞いて理解する能力 2. 自己の取り組みを自己評価して今後の取り組みに活かす能力

1 2. 評価

指導内容	学習内容	学習活動における具体的評価基準等		
		到達目標	評価基準	評価方法
既習した英語表現や語彙を使って、英語による発表をさせ、内在化させる。	既習した英語表現や語彙を使って、作成したスクリーンシートに沿って、英語で発表する。	1. 既習した英語表現や語彙が正確に使用・発音され、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度を示すことができる。 2. スクリーンシートに本文の内容が簡潔明瞭にまとめられることができる。	1. 発音やイントネーション等の音声による正確性 2. 積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度 3. スキミングする能力	活動領域による絶対評価 次の4領域において評価をする。 1. 音声に関する能力 2. 伝えようとする意欲や態度 3. 作成したスクリーンの明瞭さ 4. ディクテーション能力
発表を聞き、理解し、適宜書き取らせる。	適宜メモをとりながら発表内容を理解する。	1. 発表内容が、発表者の意図を汲み取り、聞き取ることができる。 2. 聞いた内容を正確に書き取ることができる。	1. 聞く能力 2. 聞いた内容を書き取る能力	→1.~3.は本時ないで実施 →4.は、提出させ、フィードバックする。